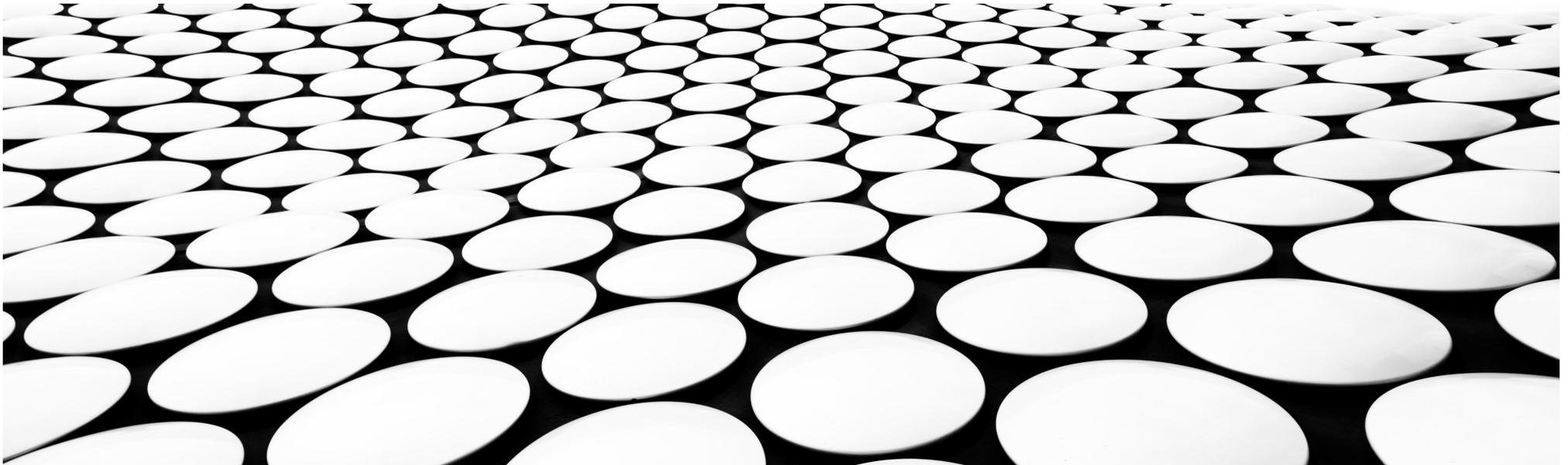


学級(HR)経営の困難と21世紀型モデルへの転換



白松 賢(愛媛大学)

20世紀モデルの困難：条件整備型・管理統制型学級経営

教員の自己効力感（TALIS調査2013）

	学級運営についての自己効力感			
	学級内の秩序を乱す行動を抑える	自分が生徒にどのような態度・行動を期待しているか明確に示す	生徒を教室のきまりに従わせる	秩序を乱す又は騒々しい生徒を落ちつかせる
日本	52.7	53.0	48.8	49.9
イギリス（イングランド）	88.7	95.6	93.3	86.3
フランス	94.6	97.7	98.2	94.9
フィンランド	86.3	92.7	86.6	77.1
韓国	76.3	70.5	80.5	73.1
参加国平均	87.0	91.3	89.4	84.8

※数字は%。「あなたの指導において、以下のことは、どの程度できていますか」という質問に対し、肯定回答「非常に良くできている」「かなりできている」と回答した割合。

出所：国立教育政策研究所編（2014）『教員環境の国際比較：OECD国際教員指導環境調査（TALIS）2013年調査結果報告書』明石書店、p.193より抜粋して作成

教師の省察能力の高さ
児童生徒への対応の複雑化

➤ 従来の学級経営の考え方や技能では、対応できない現状

学級経営をきちんとしなければならない
→学級経営ナラティブの苦しさ

先輩のアドバイスが全く通用しない実態

➤ 学級経営を21世紀モデルに転換

教師の個人 エージェンシーの困難

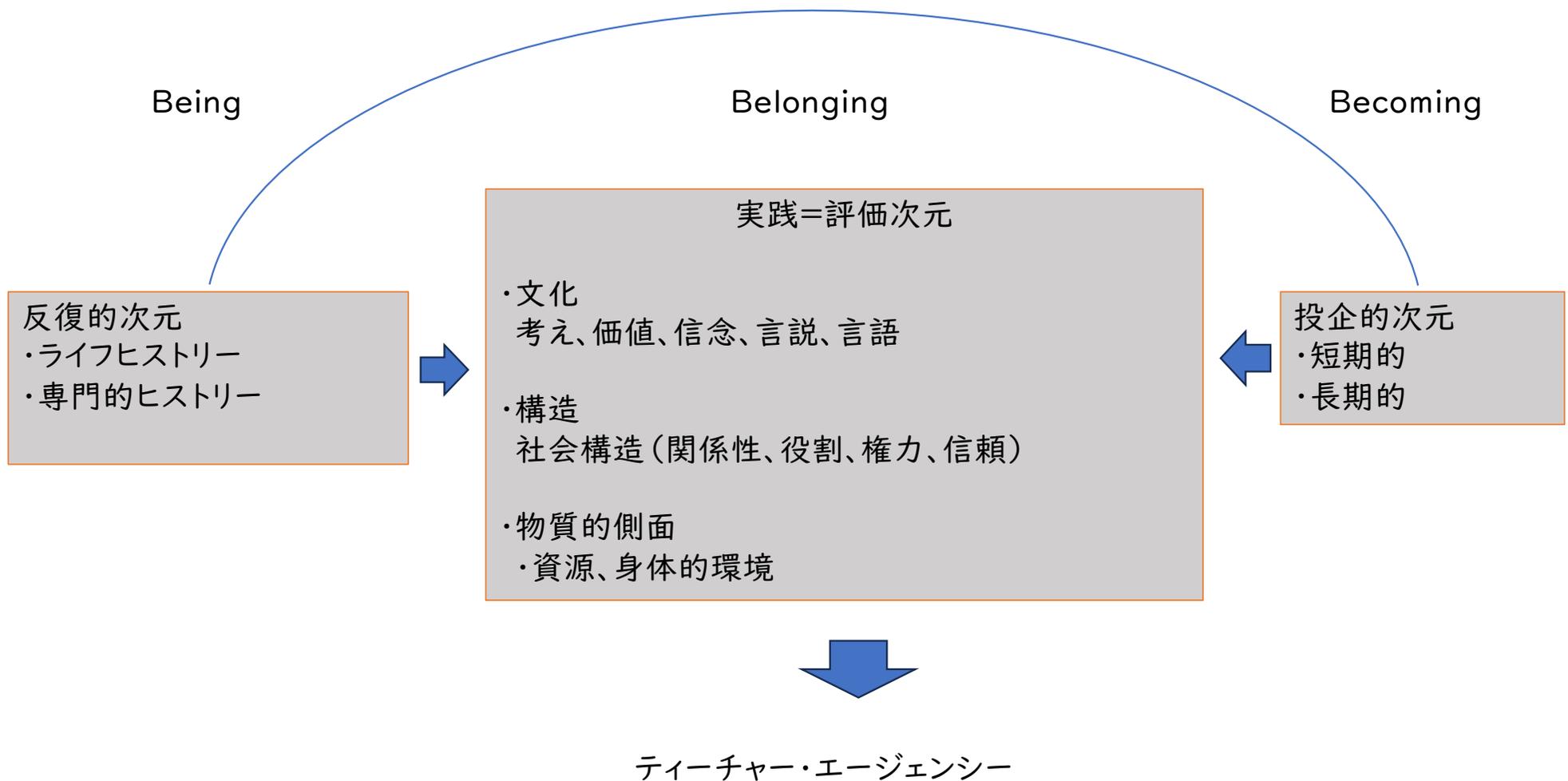
「こうあるべき」からの脱却

Teacher-centered Pedagogy
依存型の学級経営の限界

- Teacher Agency
- Student Agency

両方のエコロジーを狭める

OECD ティーチング・コンパス(教師の羅針盤):日本語訳(2025年10月20日)



Priestley, M., Biesta, G. J. J. and Robinson, S. (2015) *Teacher Agency: An Ecological Approach*, London, Bloomsbury Academic.

ティチャー・エージェンシーの考えでは

学級（児童生徒）への向き合い方こそ問われるべき

教師個人のカで「うまくまとめられる」という結果 ✕

初めて出会う状況においても、これまでの経験や学習、学校内外の資源を活かして、誠実に向き合う（サポータータイプな学校経営）

→ 集団エージェンシー、共同エージェンシーの重要性

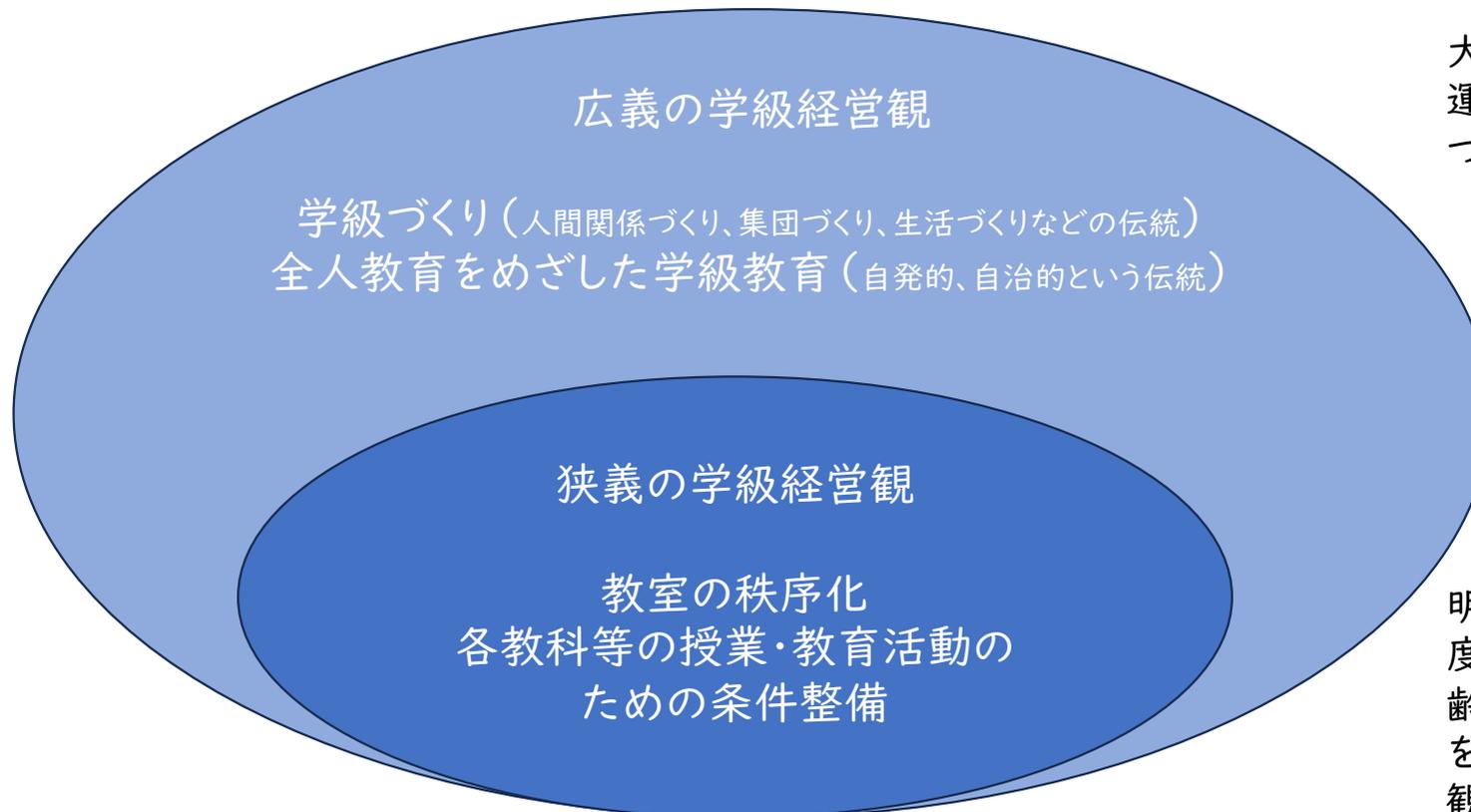
課題1：教師の集団エージェンシー

集団エージェンシーとは、教師が共通の目標に向かって協働し、集団意思決定、相互責任、専門的連帯を通じて教育実践や制度に影響を与えるための、共有された信念、価値観、能力を指す。社会的認知理論に根ざした集団エージェンシーは、教師が個々の強みを組み合わせて教育の未来を共同形成するときに現れる

*OECD ティーチング・コンパス(教師の羅針盤)：日本語訳2025年10月20日、40頁より

学級経営観が学校の中で多様化し、時に協働しながら、時に葛藤や混乱

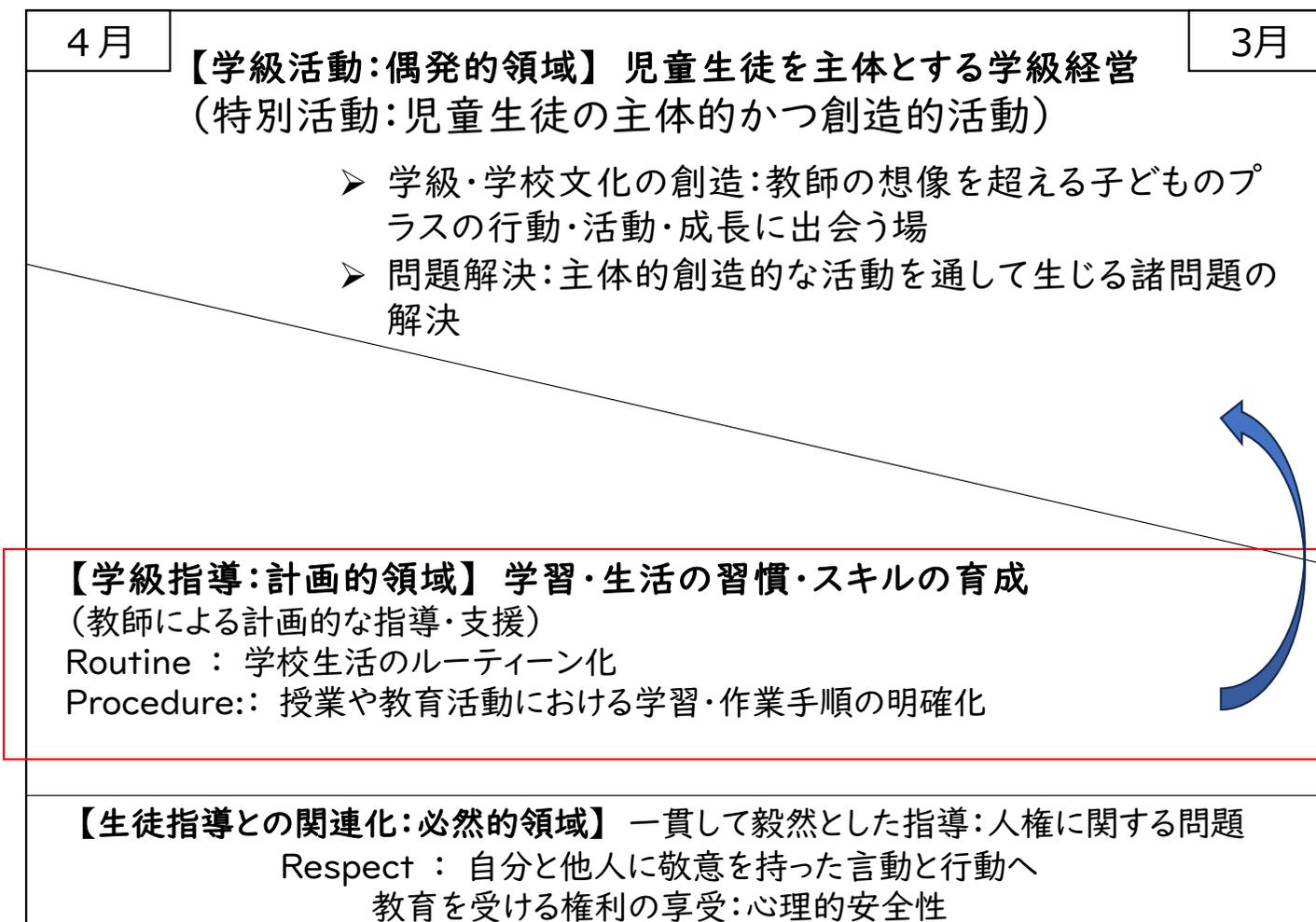
個業化された学級経営観の行き詰まり 「学級経営=学級における担任の全ての仕事に関わる用語」



大正時代の新教育
運動にルーツをも
つ学級経営観

明治時代の等級制
度から学級制（年
齢）への変更に端
を発する学級経営
観

学級経営の転換点：学習・生活規律の徹底から、児童生徒の主体化へ



教師の指導から、児童生徒の主体的成長へ

発達支持的生徒指導へ

学校経営としての学級経営領域

教員の多くは、この領域の指導に力尽きている

学級経営の3領域

「意思決定」の重要性：多様性への対応 →管理統制の客体化から発達の主体化へ

多文化的な学級における教員の自己効力感 (TALIS2018)

	文化的に多様な学級を指導する上で、以下の項目を「かなりできている」又は「非常によくできていると感じている教員の割合」				
	多文化的な学級での難題に対処する	指導を生徒の文化的な多様性に適応させる	移民の背景を持つ生徒と持たない生徒が共に活動できるようにする	生徒の文化的な違いへの意識を高める	生徒間の民族に対する固定観念を減らす
中学校	16.6	19.7	27.8	32.5	29.8
参加国平均(中)	67.9	62.7	67.9	70.2	73.8
小学校	17.2	21.7	28.1	36.9	31.6

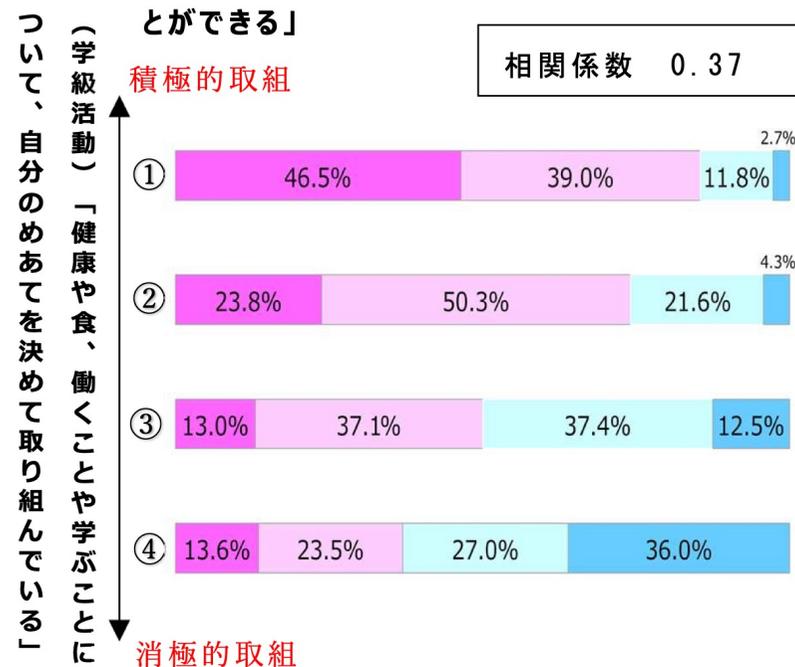
*小学校はアンダーラインの生徒が出典では児童となっている

出所：国立教育政策研究所編『教員環境の国際比較：OECD国際教員指導環境調査 (TALIS)2018報告書—学び続ける教員と校長—』、ぎょうせい、135-136ページより抜粋して作成

(共通) 粘り強く取り組む態度

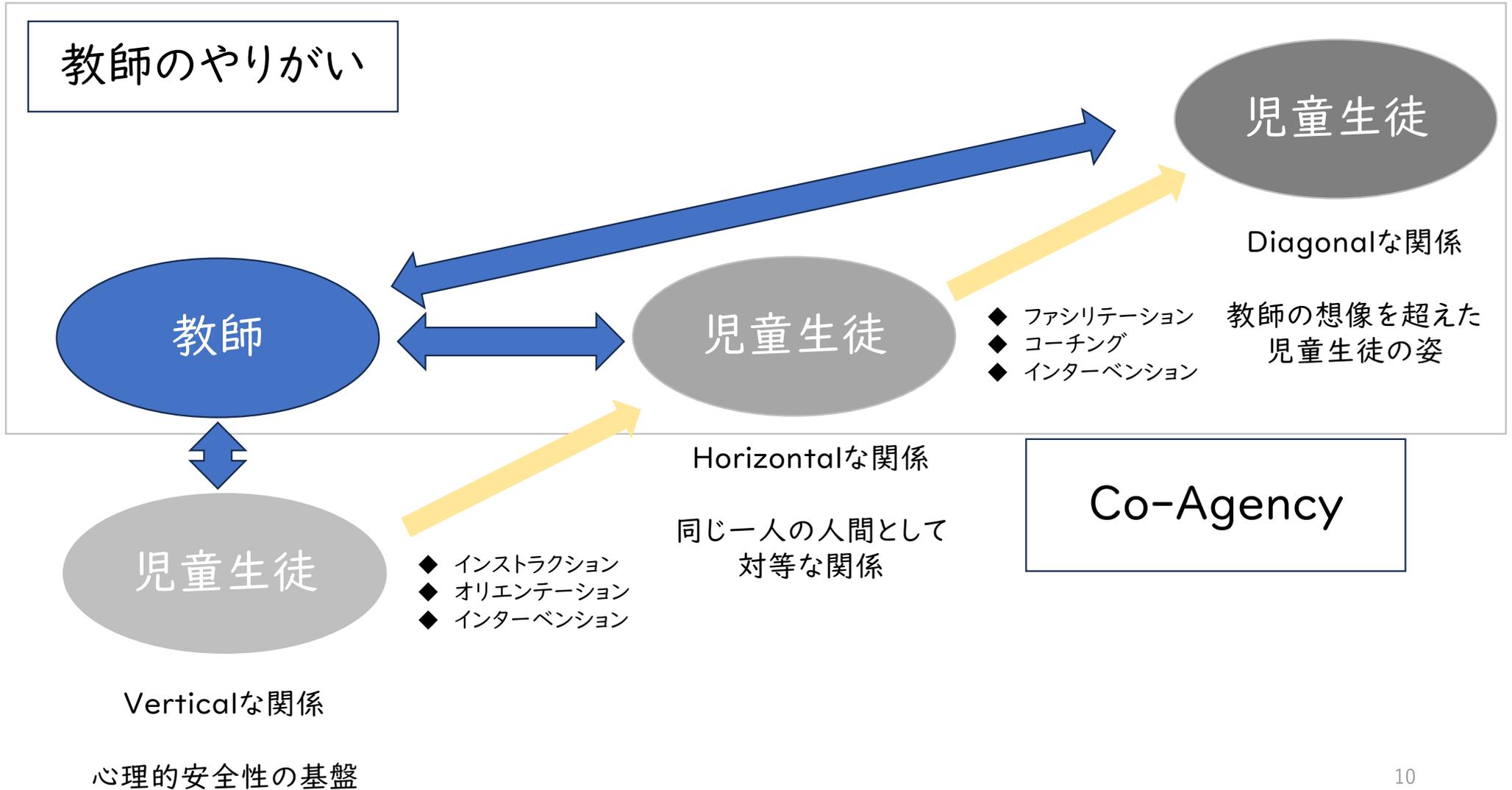
「時間がかかる課題でも集中して取り組むことができる」

相関係数 0.37



令和4年度学習指導要領実施状況調査 教科等別分析と改善点 (小学校 特別活動【質問調査】)、小特 9より

教師=児童生徒の関係性



課題2:生徒との共同エージェンシーの発揮へ (Co-Agency)

意思決定のプロセスについて（イメージ）

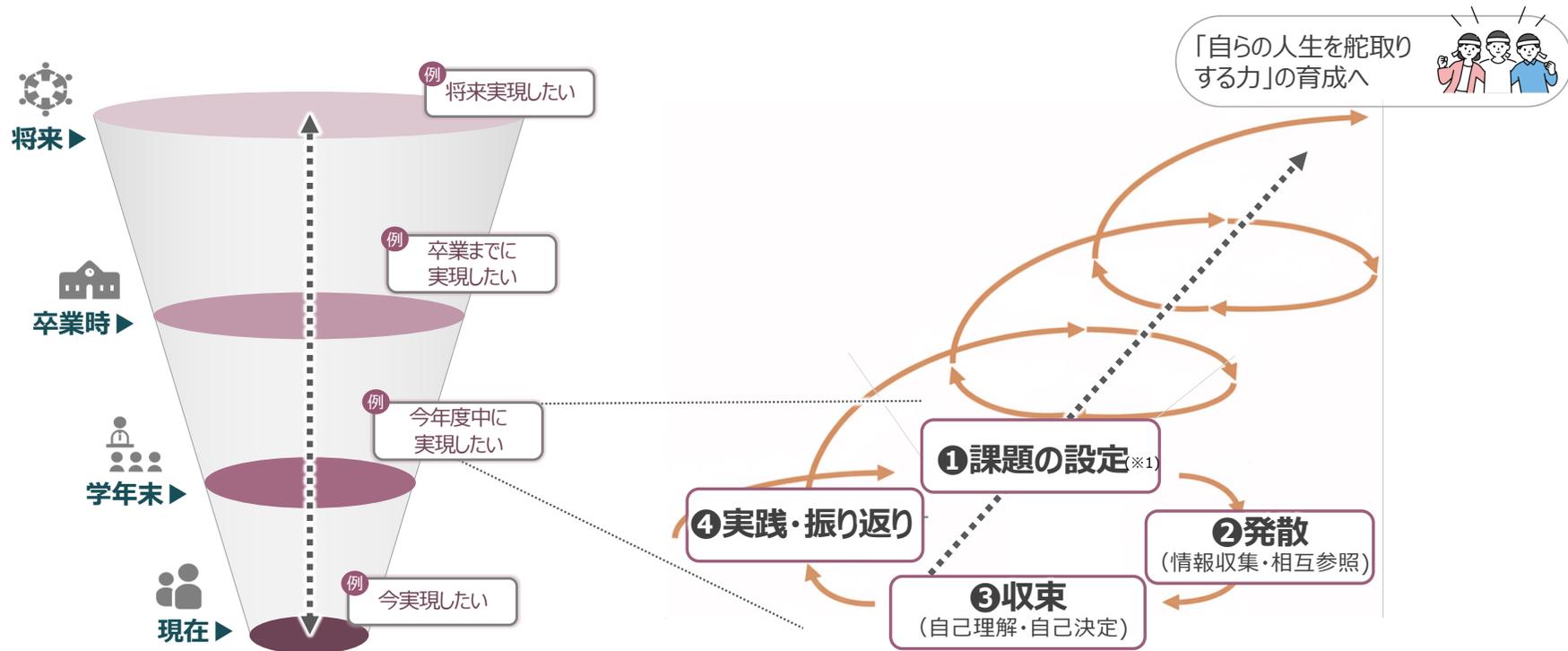
補足イメージ4

- 論点整理における「自らの人生を舵取りする力」を踏まえ、学級や学校という身近な社会との関わりで自己の生活上の課題と向き合い、その解決に向けて主体的に取り組む**意思決定のプロセス等について、一定の共通理解**を確保することが重要ではないか。
- このため、意思決定に関する概念整理や、実践の蓄積等を踏まえ、**意思決定の典型的なプロセスを「①課題の設定、②発散（情報収集・相互参照）、③収束（自己理解・自己決定）、④実践・振り返り」とした上で、意思決定は現在から未来の様々な射程で存在していることや、実践・振り返りを不断の見直しにつなげることが重要**であることを、必要に応じて活用できる参考資料として示してはどうか。

（※）プロセスを辿ること自体が目的化することのないよう留意

1. 目の前のことから卒業後まで、
意思決定は現在から未来の様々な射程で存在

2. **実践・振り返りを新たな課題の発見につなげ**、よりよい生活の創造に向け、一度決定したものも**不断に見直すことが重要**



（※1）「課題」はProblemではなくIssueであり、「望ましくない状況」を意味するものではなく、よりよい生活に向けた前向きな内容を含むことに留意

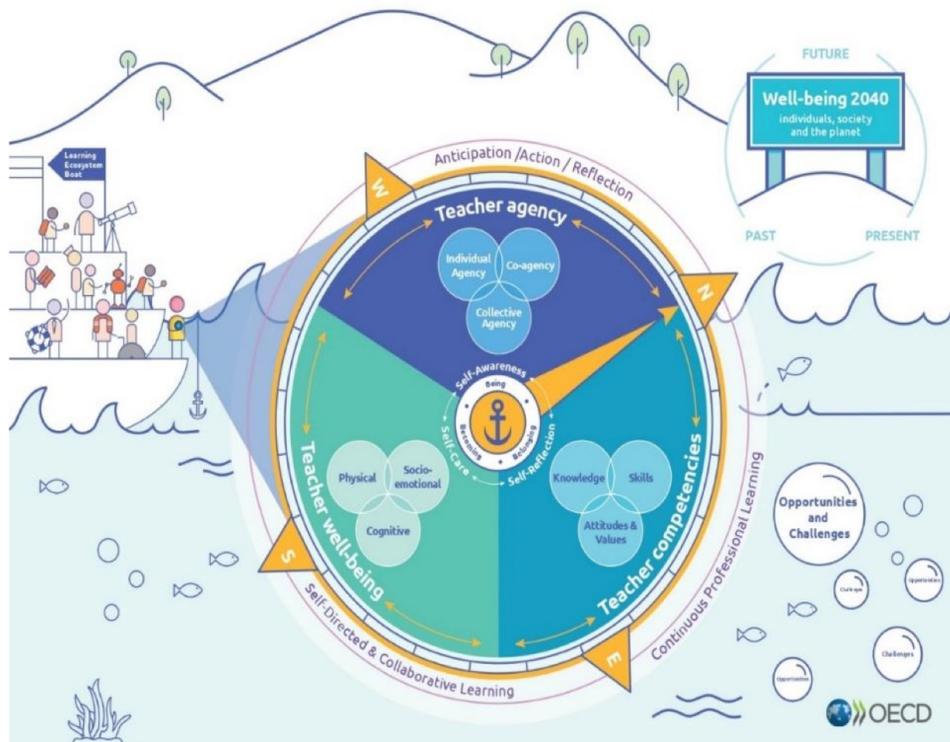
社会化したい題材を個人の取り組みたいことに主体化する時間 ＝学級活動(2)(3)

目指す自己実現目標:自分のライフを自分でプロデュースする<自分軸>

<p>主体化 (多様化=焦点化)</p>	<p>自分は何に取り組みたいか?なんだったらできるか? (個人化:意思決定)</p> <p>個々の児童生徒の実態(多様性)</p> <ul style="list-style-type: none">● 家庭の文化的背景● 個々人の特性 など
<p>社会化 (集団への提案)</p>	<p>学級活動(2)(3)の題材を通して身につけてほしいこと (教師の期待する児童生徒像:願いでしかない)</p>

*社会化と主体化(subjectification)は、Biesta,G.J.J(藤井啓之・玉木博章 訳)(2016)『よい教育とは何か』、白澤社より

ぶれないコンパスのための<錨> 変化が激しい時代の羅針盤—自分軸を錨に



学級経営の核としての学級活動：児童生徒の力を伸ばし、活かす場

学級経営の充実（偶発的領域）：共同エージェンシーの発揮

○週1時間ある学級・HR活動をうまく活用しよう

目的：子どもをうまくコントロールすることではない

→子どもと話し合い、よりよくすること

学級活動とは、

- (1) 児童生徒と学級や学校生活をどうするか一緒に考える時間
- (2) 学校や家庭、地域での自分の生活をよりよくする時間
- (3) 学業や進路、将来についてしっかり考える時間